

第23期 東京都社会福祉審議会意見具申「人生100年時代における東京の福祉施策のあり方」(概要)

審議テーマ

急速な高齢化やデジタル化の進展、東京という都市の特異性を踏まえつつ、世代間関係を捉え直し、誰もがどのような状態や環境に置かれても心豊かに自分らしい生き方ができる社会を目指して、**人生100年時代における東京の福祉施策のあり方**を検討

意見具申のポイント

検討の前提となる社会の変化等

◆人口構造・社会構造の変化

- ・平均寿命の延伸に伴う、高齢者の**就労意識**、**地域貢献意欲の高まり**
- ・一方、**認知症高齢者**の増加や**多死社会**の到来が懸念
- ・単身世帯数の増加に伴う、**孤独・孤立**の問題が深刻化

◆東京の特異性

- ・人口が集積する大都市のため、**課題が顕在化・先鋭化**しやすい
- ・年齢や国籍など**多様な人々**に加え、企業や教育機関など**多様な主体**が集積
- ・住民の流動性が高く、**地縁・血縁のつながりが薄い**

具体的な施策提言

東京の特異性を踏まえた地域の実情や人々の動きにふさわしい施策

世代というものの意味を問い直し、世代間の関係の未来展望を考えてみる

◇地域を創る様々な主体

- ・多様な主体と連携した高齢者の**地域交流**や**社会参加**の仕組みづくり
- ・**地域プログラムの再構築**やその実施**団体の持続的な活動**への支援

◇多世代交流・世代間理解による連携

- ・**高齢者像を刷新**し、各世代が互いに強みを活かす**多世代共創社会**を形成

◇地域における居場所づくり

- ・**選択縁に基づくリアルとデジタルを併用した居場所づくり**を支援
- ・AIやデータベースを活用した**地域人材**としての高齢者活躍の促進
- ・困難を抱える人々の居場所確保に向けた**排除しない社会**の構築

◇共に支えあうケアのあり方

- ・**高齢者の次世代への貢献**、世代間伝承、相互理解が重要
- ・介護人材不足等に対応した**多様な働き方やサービスの提供体制**の整備

◇家族や家庭の支援が脆弱となった場合のセーフティネット

- ・多様化する**孤独・孤立問題**や**新たな知見に基づく認知症への支援**

各ライフステージに対応した福祉施策をどう進めるか

人生100年時代において、**ライフステージの時々で、全ての人が自分らしい生き方を描き、ウェルビーイングを最大化**できるよう切れ目なく支援

若年期・壮年期

プレシニア期

後期高齢期

超高齢期

◇早い時期からのライフデザイン

- ・若者が主体的かつ**前向きにライフデザイン**を行うための支援や教育
- ・**定年後を見据えた学びと働き方**の再設計の機会提供や環境整備

◇地域人材、フレイル予防

- ・**地域社会への還元**をもたらす、個々に応じた**就労や学びの提供**
- ・「地域力」やデジタル技術を活用した**フレイル予防**の推進

◇ウェルビーイングの確保

- ・身体・認知機能低下への**デジタル、対面を組み合わせた支援**
- ・単身高齢者への**包括的な相談体制**や支援体制の整備

◇本人の尊厳、終末期の看取り

- ・**成年後見制度等**のあり方を見直し、**本人の意思決定を支援**
- ・**地域で死に向き合い、看取りに至るまでの尊厳を保障**するケアの構築

本意見具申の施策提言が、福祉局の行政計画に反映されるとともに、国や他府県へ波及することを期待